

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第5号 令和2年10月6日 発行

オンライン発表会

3年理数科の生徒は、昨年度取り組んだ課題研究の成果を発表するためにいくつかの発表会に参加しました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、多くの発表会がオンラインでの開催に切り替わりました。感染拡大を防ぐためのやむを得ない措置ですが、一方で昨年までのように開催地に移動する必要がなく、学校で参加できるので、これまで参加したことがない発表会への参加の機会が広がっているという面もあります。

『高校生バイオサミット』

昨年までは、山形県鶴岡市にある慶應義塾大学先端生命化学研究所で開催されていましたが、本年度はオンライン開催となりました。本校からは、ハスを用いた発熱植物について研究した、佐々木愛彩さん、佐々木愛里さんの2人が参加しました。

始めに、要旨、ポスター、ポスターを説明する動画のデータを提出して一次審査を受けます。一次審査を通過した発表により、8月24日にオンラインで最終発表会を行いました。本校の発表は、残念ながら一次審査を通過できませんでした。



『SSH生徒研究発表会』

この発表会には、全国のSSH指定校から学校代表1チームが参加します。本校からは、卵殻膜を用いた銅(II)イオンの吸着について研究した卵班の及川美結さん、佐藤安沙美さん、鈴木萌晏さん、豊嶋成葉さん、村上ももさんの5人が参加しました。

始めに、要旨、ポスター、ポスターを説明する動画のデータを提出して一次審査を受けます。一次審査を通過した発表は、オンラインで大学の先生から質問に答える二次審査に進みます。二次審査を通過した発表により、8月28日にオンラインで最終発表会を行いました。本校の発表は、残念ながら一次審査を通過できませんでした。



『日本金属学会・高校生ポスター発表』 優秀賞受賞

富山大学での開催予定でしたが、オンライン開催になったため、9月15日に学校の情報処理室のPCを使用して参加しました。日本金属学会の発表会という関係もあり、金属を扱った研究である、卵殻膜を用いた銅(II)イオンの卵班が参加しました。

この発表会では、Zoomを用いてスライド発表を行いました。始めにZoomの発表会場に入り、発表スライドを開いて待機します。大学の先生が入室してくるので、挨拶をして発表を行い、その後、質疑応答を行いました。2時間の発表時間中に8名の先生方に発表を行いました。質問者への回答は交代で行いましたが、簡単な質問をする方もあれば専門的な質問をする方もあって、質問を受ける生徒はとても緊張した様子でした。しかし、後半になるとかなり慣れてきたように見えました。審査の結果、本校は優秀賞を受賞しました。



『日本化学会東北支部・高校生ポスター発表』

八戸工業大学での開催予定でしたが、オンライン開催になったため、9月26日、27日の2日間の日程で、学校の情報処理室のPCを使用して参加しました。参加したチームは、卵殻膜を用いた銅(II)イオンの研究(卵班)と生分解性プラスチックの研究(プラスチック班、熊谷駿介さん、小沢千星さん、佐々木陽菜さん、那須川芽依さん)の2チームでした。

この発表会では、ポスターと発表内容をまとめたスライド(説明の音声を付き)を事前に提出しました。発表会当日、聴講者は始めにポスターとスライドを見ます。そして、質問があれば、コメント入力欄に質問を入力します。質問を受け取った発表者は、コメント入力欄に回答を返信するという方法で行われました。文字での質問は、音声で直接質問される場合と異なり、ポスターのどの部分についての質問なのか、どういう意図の質問なのかを読み取る事が難しいところがありました。また、回答もどこまで答えたら良いのかわからず長文になる傾向があり、入力に時間がかかりました。これからは、このような発表形式が増えていくと思われますので、慣れていかなければならぬことも痛感しました。

後日、ポスター賞の発表があり、本校は選外でした。



卵班のメンバー



プラスチック班のメンバー